

キャリア教育とは、 「わくわくエンジン」を 見つけるための 活動だ。



**NPO法人
キーバーソン21
代表理事
朝山あつこさん**

2000年12月に「キーバーソン21」を立ち上げる。以来、「子どもたちに夢と職業意識を
送りたい」と「まろり」を中心に、学校教育や自治体
企業研修の現場や各種イベントで、生き方や
キャリア教育に関するワークショップや講演を
実施。プライベートでは3人の子の母。

きっかけは、母親として
子どもたちの将来を考えたこと。

——初めに、キーバーソン21の活動の内
容を教えてください。

朝山 キーバーソン21は、学校に通う子
どもを持つ母親が中心となって2000年に設立
した団体です。将来どのような仕事をしたら
いいか、どのような生き方をすればいいの
かということ子どもたちに伝えたいという
思いから、学校を中心にして小・中・高校生
向けのプログラムを開発し、実施しています。
——そういった活動を始められたのは、ど
うしてですか。

朝山 きっかけは、私自身が持っていた問
題意識です。というのも、ちょうど2000年

前後、「学校崩壊」などの言葉が目立って
いたところに、私の長男の通う学校が、ま
さにその学級崩壊に直面しました。無気力
になったり、暴れたりする子どもたちを前
に、学校も非常に困惑しつつも、何とか手
を尽くそうと必死になっていたのです。でも、
教育の主体は学校の先生方だけではありません。
私も、一人の母親として「私にでき
ること・今やるべきことは何だろう」と真
剣に考えるようになりました。考えに考え
た末、気づいたのは「今の子どもたちに、
何のために学校に通うのが、勉強をするの
か」ということを考える機会をきちんと与
えなければならないのでは、ということ。
子どもたちに将来のことを考える機会や、
違う価値観の人たちに接する機会をもっと

つけてやるべきだ、と。そして、学校に
行って、先生方に「こんなことをしてはどう
でしょうか」と話をするところから、少しづ
つ活動を始めていきました。

とはいえ、私は当時、一介の専業主婦に
過ぎません。学校には、外部の人材が入る
ことへの抵抗感もあり、すぐには活動を広
めていくことができたわけではありませんで
した。しかし、地道な活動を続け、2005
年に私たちのプログラムが経済産業省から
キャリア教育のモデルプロジェクトになっ
たことをきっかけに、多くの学校でプロ
グラムを取り入れてもらえるようになりました。

このように、活動の経緯は、決して「キ
ャリア教育を始めよう」と思って始めたも
のではありませんでした。そのときの私の

CHECK!

■キーバーソン21のキャリアプログラム体系

12〜13ページで
活動をレポート!

プログラム	「好きなものビンゴ& お仕事マップ」	「なるには探偵団」	「コミュニケーション ゲーム」	「カッコいい 大人ニュース」	「個別アクション プログラム」
ねらい	自分の好きなものを意識的 に理解し、その好きなものと 関連する職業を知る	興味・関心を持った職業で 働く人になるにはどうする ればよいかについて、職業 を調べるための考え方を 理解する	職業を調べる上での情報 ソースとして重要な「人」 から情報を得るために必 要となるコミュニケーション を学ぶ	学んだコミュニケーションを 生かして職業人へのインタ ビューを行い、興味・関心 のある職業について得た情 報をまとめる	興味・関心を持った職業に 就くためのアクション計画の 立て方を学ぶ
習得ノウハウ	・キャリアアンカー認識法 ・多角的発想法	・調査設計法	・オーラルコミュニケーション スキル	・インタビュー スキル ・情報検索能力	・プランニング スキル
学校側の フォロー学習例	・職業学習	・調べ方学習	・マナー学習	・職業人インタビュー ・職場体験	・進路学習指導

立場で、子どもたちに必要なことを考えていったら、それが「キャリア教育のようなもの」で、だんだんその輪郭を覚えていったという感じですね。

プログラムのねらいは、「わくわくエンジン」を見つけること。

——現在行っているプログラムには、どのようなものがありますか。

朝山 「夢発見プログラム」と名付けたプログラムの中には、目的と実施形態に合った5つのプログラムがあります。そのうち、「すきなものピンポイント仕事マップ」「なるには探偵団」「コミュニケーションゲーム」「かっこいい大人ニュース」の4つは、小・中・高校生向けのプログラムで、学校全体やクラス全体といった団体で行うことを前提にしています。

キーパーソン21のプログラムの特徴は「ゲーム形式になっていること」「グループワークであること」「先生や親以外の大人がかかわること」の3点。なぜゲーム形式かというと、「将来のことを考えるのは楽しい」としてもらいたいからです。

——それらのプログラムの目的は何でしょうか。

朝山 目的は、「自分を知ること」「自分の好きなことには多くの関連した職業があることを知ってもらうこと」、さらに「それを徹底的に掘り下げていくこと」です。

たとえば、将来はパイロットになりたい

と思っている子どもがいたら、なぜパイロットなのかをとことん考えさせます。きっと「空を飛んでみたい」「機械が好き」「外国に行きたい」などいろいろな理由があるでしょう。掘り下げて考えることで、自分はパイロットという職業に就きたいというよりも、本質的には「機械が好き」なんだと、その子が発見できれば、将来の選択肢は多様に広がるでしょう。

私たちは強でも、「それをやっていたら夢中になれる。そのことを考えただけで体が思わず動き出さずにはいられない」ような何かを持っていると考えています。そして、私たちはそれを「わくわくエンジン」と呼んでいます。この「わくわくエンジン」を見つけるサポートをすることが、とても重要であると考えています。

子どもも大人も学生も、それぞれが気づきを得る。

——プログラムにかかわる「大人」というのはどういう方々ですか。

朝山 これらのプログラムを行うときには、ご協力いただいている企業の方々や、キーパーソン21の会員たちが一緒に活動します。たとえば「かっこいい大人ニュース」というプログラムには、いろいろな職業に就いている人たちに子どもたちがインタビューをするという内容が含まれています。実はこのプログラム、子どもたちにももちろん、こうした大人の方々に非常に評判が良いのです。

子どもたちに質問されて、いろいろなことを話しているうちに、自分の仕事を客観的に見られるようになり、「まだまだだと思っていた自分も、意外とやるじゃないか」という気持ちになるようです。自分のキャリアの理解をすることが、自己肯定につながるのでしょうか。

さらに大人と子どもをつなぐ役割として、キーパーソン21では大学生スタッフが事前準備や当日の進行を行います。彼らにとっても、企画運営を仕切ったという経験は、社会に出てからの大きな武器になることでしょう。こうしているいろいろな人がいろいろな立場でかかわることにより、私たちのプログラムがますます厚みのあるものになるのではないかと考えています。

——今後の課題は何でしょうか。

朝山 本来、キャリア教育とはイベントのように一度やればいいというものではなく、子どもたちの年齢に応じて少しずつ形を変えて、継続的に行うべきもの。5つのプログラムは、今は単体での申し込みが多いのですが、本来は発達に応じて考えを深めていけるようにつくっています。ですから、私たちの活動を単発で終わらせてしまうのではなく、学校ではかの活動とつなげていきたいと思っています。そして、いろいろな場面で将来について子どもたちに考えさせる社会、教育をめざして、これからも活動を続けていきたいと思っています。

プログラムの運営・実施に携わる大学生スタッフの声



渡辺新一さん
(専修大学文学部
英語英米文学科4年)

高 校生までは、子どもが接する大人というのは、両親や学校の先生などごく限られた範囲でしかないとほとんどです。大学生になっても、自分の世界は広がるものの、「社会」を知る機会としてはアルバイト経験が加わるだけということも多いでしょう。そう考えると、自分が働くまでの間に、実際に働いているさまざまな大人と接する機会はあまりないままだということに気づかされました。

他方では、「子どもたちのために何かしよう」という気持ちを持っている大人が、学校の外には大勢いることも実感。学校の中でだけ、先生方だけでは子どもたちに伝えきれないことは、そうした方たちと協力して伝えていけばいいんだ、と。こうしたさまざまな気づきを、今度は教壇で生かしていきたいと思っています。



キーパーソン21の活動を拝見！

大人たちに話を聞こう

～カッコいい大人ニュース～

今回は、川崎市立御幸中学校の2年生を対象にプログラムを実施。参加したのは、キーパーソン21のファシリテーター10人と、生徒に自分の仕事を語るさまざまな職業の大人たち30人。プログラムの様子を見てみましょう！

今日のねらい

- ① 自分と社会の架け橋となる大人たちと出会い、社会や職業をリアルにとらえる。
- ② 先輩の職業観、人生観を語ってもらうためにインタビュー方法を創意工夫し、自己の表現力・分析力を養う。
- ③ コミュニケーション能力を養い、世の中を知る。

1 生徒たちと、取材準備

これから会う「カッコいい大人」に聞きたいことを、考えたり書き出したりしておきます。あらかじめ整理しておくことで、的確なインタビューをすることができます。写真は渡されていますが、実際にどんな人かは会ってみたいとわからないため、質問がなかなか思い浮かばず、苦労している生徒も。



普段は事前に考えてくる時間があるんですが、今回は当日に考えるということだったので、質問が出るように、考えるヒントをさりげなく与えたりしました。

現在は専業主婦ですが、前はキャリアアドバイザーをしていました。参加は今回が初めてです。中学生という多様な年齢の子どもたちとうまく話せるかどうか、少し心配です。



大人たちと、直前打ち合わせ

すでに2回のファシリテーターの講義を受けている大人たちも、念入りな最終打ち合わせを実施。今日の流れと注意点を確認し合いました。今回が初めての参加という人は「質問が出なかったらどうしよう」とドキドキしている様子。お互いの自己紹介や、学校の先生方とのあいさつも行いました。

2 グループ取材

5～7人のグループに分かれて、取材開始。まずは大人の皆さんが、それぞれの仕事をざっと説明した後、生徒からの質問が始まります。「この仕事に就こうと思ったきっかけは？」「資格はあるの？」「お給料はどれくらい？」「1日に何時間ぐらい働くの？」といった仕事に関することから、「中学校時代の成績はどれくらいだった？」「部活動はやってた？」といった自分の中学校生活と照らし合わせるような内容まで盛りだくさん。

テレビ番組って、どうやって制作しているのかに興味がありました。話を聞いて面白そうな仕事だなと思いました。



制作の仕事って、休みなく深夜まで働いているようなイメージがありましたが、そうでもないという話を聞いて、少し驚きました。



実施学校：
川崎市立御幸中学校（神奈川県）
2年生（クラス数5・生徒数191人）

プライベートに関する質問も多かったのですが（笑）、仕事に関する質問がたくさん出て、こちらがびっくりすることがありました。

3 個別取材

1人あるいは2人組で、同じ大人に改めて取材をします。友達の前だと聞きにくかったことも1人なら聞けるのか、先ほどとは打って変わって積極的になる生徒も大勢。個人的な質問も多くなり、職業はもちろんのこと、個人そのものに興味を持っている様子が見られました。



年商が20～30億円もあると聞いて、びっくりしました。僕たちにはそれがどれくらいなのかイメージできないくらいの金額です。



4 取材まとめ

今日聞いたことをシートにまとめ、考察します。そんなに深く考えずに聞いたことであっても、書いているうちに大人が伝えたことがわかってきたりします。その後は、そのシートを基に、班ごとの発表のための準備をします。今日聞いた話の何が印象に残ったかということも「トレジャーカード」に書いていきます。

5 発表

グループごとにみんなの前で発表をしました。トレジャーカードに書かれた言葉を一人ずつ読み上げます。その仕事がどういう仕事をうまく言葉にできたグループもあれば、人間性を深く理解したグループも。その後、そのグループが取材を担当した大人から、コメントをもらいました。



人材派遣会社のキャリアカウンセラーという見わがりにくい私の仕事に関して、正確に理解できていたので、とても驚きました。

今日の活動の振り返り



アシスタントファッションディレクター
福山美穂さん

最初の質問を考えてもらう時点で、考え込んでいた生徒もいたので心配していましたが、いざ始めてみると、話もスムーズにできていたので、よかったと思います。子どもたちにはあまりなじみがなさそうな職業の方もいらっしゃいましたが、子どもたちは取材を始めると次々に質問をしていました。今まで知らなかった仕事についても理解が深まったのではないかと思います。

今日の活動の感想



2年3組担任
大澤有史先生

これから職場体験を控えているので、良い体験になったと思います。生徒にとっては、目の前にいる大人からその人の言葉で直接話してもらえると、自分のこととして考えやすいのではないのでしょうか。私たち教師も、さまざまな職業や生き方を学ぶ機会になりました。